

取扱説明書



背負動力散布機

1^キ剤
対応

GD 300A

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびは、本製品をお買いあげいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は、安全で快適な作業を行っていただくために、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき十分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの冊子をご活用ください。

お読みになったあと必ず大切に保管し、本製品を末永く使用できますようにご活用ください。なお、より良い製品をご提供するために製品と本書の内容が一部異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。

また、安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい安全のポイントを抜粋した「安全作業説明書」を別冊に同梱しておりますので、合わせてご活用ください。

本製品についてお気づきの点がございましたら最寄りの取扱店、または当社の営業所にお問い合わせください。

- 取扱説明書は大切に保管してください。
- 紛失した場合は最寄りの取扱店、または当社営業所にてお買い求めください。
- 本製品を改造することは、安全で快適な作業に支障をきたすだけでなく、大変危険ですのでおやめください。

■注意事項について

この取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

⚠ 危険 …もし警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになる状態。

⚠ 警告 …その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性があるもの。

⚠ 注意 …その警告に従わなかった場合、けがを負う可能性があるもの。

注意 …その警告に従わなかった場合、機械の損傷の可能性のあるもの。



■機械を他人に貸すとき、運転させるとき

事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある**⚠**(安全注意マーク)印の付いている警告ラベルも一枚ずつ説明してあげてください。親切心が仇にならないように機械と一緒に取扱説明書・安全作業説明書を渡し、よく読んで理解し取扱い方法を体得してから作業するように指導してください。

とくに禁止事項については念を入れて説明してください。家族も同じことです。

自分が使用するつもりで！



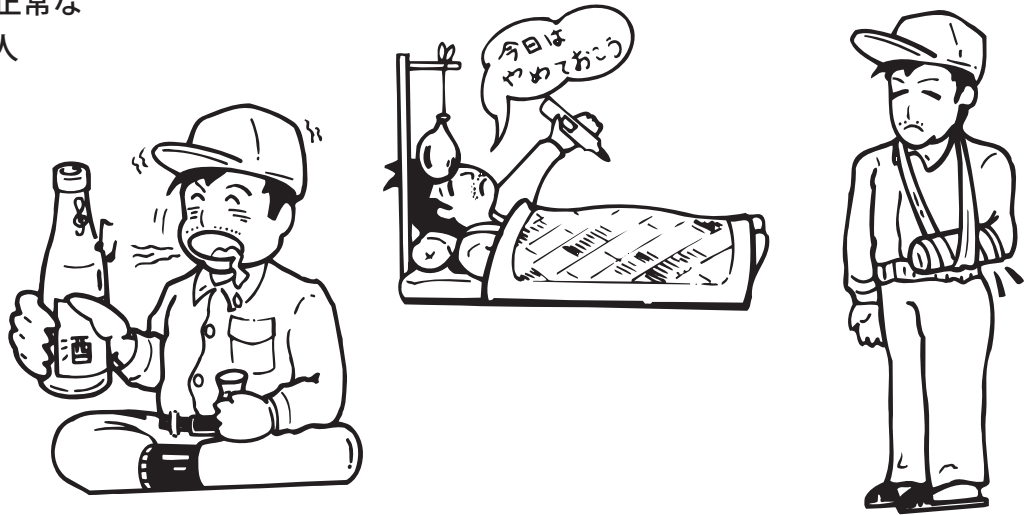
	ページ
1.  安全に作業するために	2
作業前の注意	2
ご使用する時の注意	3
使用用途	
ご使用後の注意	4
2. 各部のなまえと操作部のはたらき	5
標準付属品のご確認	5
各部のなまえ	6
 警告ラベル	7
操作部のはたらき	8
3. 取扱及び操作のしかた	10
組立	10
始業前点検	13
シャッタのセッティング	13
燃料の給油／エンジンの始動	14
薬剤の補給と散布開始	15
散布終了とエンジン停止	16
散布計画	17
吐出量グラフ	19
各噴頭の散布幅	20
吐出量の算出方法と肥料散布	21
散布例	22
4. 清掃・整備・格納について	23
薬剤タンク清掃	23
各部の清掃	24
整備と格納	25
故障診断とその処置	26
5. サービスについて	28
アフターサービスについて	28
補修部品の供給年限について	28
オプション（別売）	28
6. 仕様	29
仕様表	29
付属品	29

1. ⚠️安全に作業するために

作業前の注意

こんな人は、散布作業してはいけません

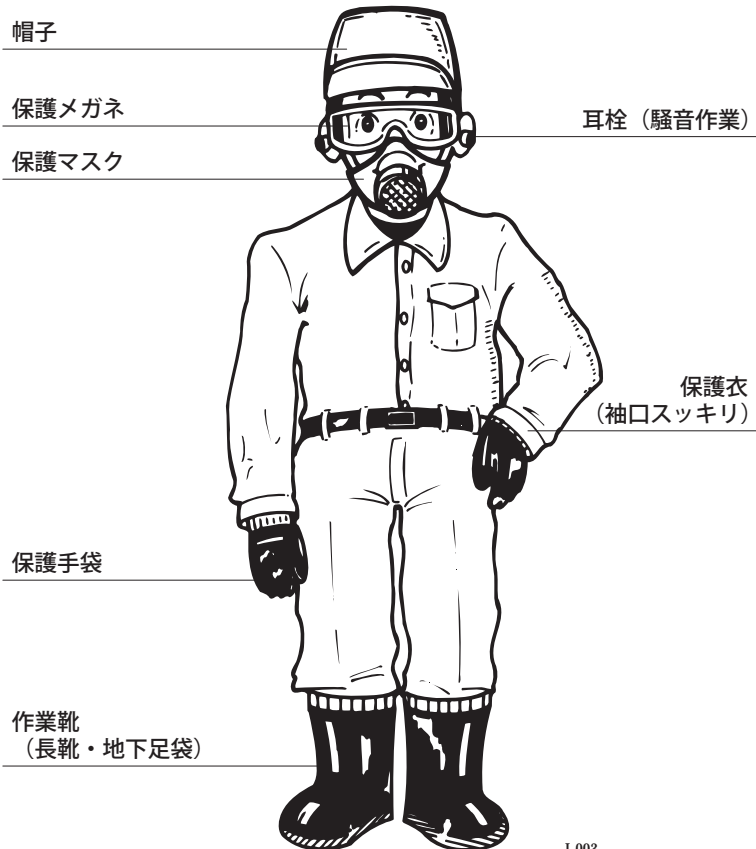
- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により正常な散布作業ができない人
- 酒気をおびた人
- 妊娠している人
- 散布作業以外



I-002

作業に適した服装をします

身体にあったものを
着用する散布業者



I-003

⚠️警告

保護具はつねに正常な機能を有する様、点検・整備を行い、正しく使用して下さい。

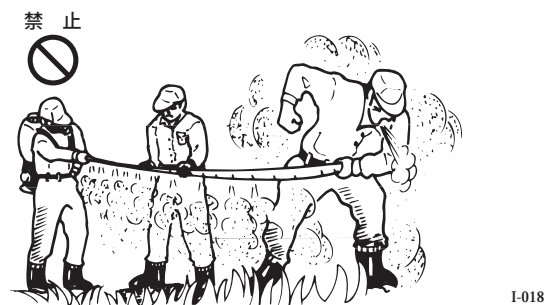
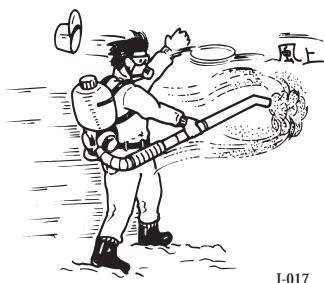
使用用途

- 水田・畑作・果樹・草木等の病害虫に対する粉剤・粒剤の散布。
- 水田・畑作・果樹・草木等に対する粒状肥料の散布。
- 水田・畑作・牧場等に対する種子の散布。
- 雑草に対する除草剤の散布。
- 液剤の散布。(希望付属品)

自動車などによる運搬時はスロットルレバー、シャッターレバーは最下段にして機械が転倒しないような処置をしておきます

薬剤について

- 使用する薬剤や肥料のラベルをよく読み、使用方法、使用上の注意をよく知っておきます。薬剤は開封後ただちに使用してください。開封して放置した薬剤は吸湿などで散布に悪影響する場合があります。
- ▲ **警告** 火災の恐れがありますので引火性の強い薬剤は使用しないで下さい。
- ▲ **注意** 反当散布量や薬剤の種類をまちがえると、薬害をおこします。
- ▲ **注意** 薬剤タンク内に薬剤を入れて長時間放置しないようにしてください。本機に支障を来たします。
- 薬剤、肥料は安全な場所に保管し、運搬するときは、袋が切れないように気をつけます。
- 使用済みの薬剤、肥料の袋は害のないように処理します。
- 薬剤、肥料の取扱いには十分注意し、万一目や口に入ったときは、すぐに水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けてください。
- 風向きによって散布方法を変え、作業や住宅等に影響が出ないようにしましょう。薬剤散布は風上から風下に向かって作業しましょう。また、周辺の他作物、畜舎、養魚池、住宅に漂流飛散させないよう配慮しましょう。
- ▲ **危険** 散粉、散粒ホースの中持作業はしないでください。農薬を浴びることになります。
- 薬剤タンクが満タンの本機は重量物です。背負う時は、腰を痛めない様に十分注意してください。



燃料について

- 燃料の補給は必ずエンジンを停止し、冷えてから、行ってください。こぼした時は拭き取ってください。
- 燃料補給タンクから3m以上離れて始動してください。
- 混合比は2サイクルオイル混合比を守ってください。
- ▲ **危険** 燃料の補給や手入れをする時は火気を近づけないでください。

ご使用する時の注意

エンジンについて

- ⚠ 警告** 室内では運転しないでください、一酸化炭素中毒になります。
エンジンの排気ガスは吸わないように注意してください。
- ⚠ 警告** リコイルスタータをエンジンから不用意に取り外すと、蓄力されたスプリングが一気に解放しリコイルスタータが回され危険です。リコイルスタータの取り外しは、取扱店に依頼してください。
- ⚠ 警告** リコイルスタータはスプリングに蓄えられた力によって始動する方式（蓄力式）なので、エンジンが遅れて始動することがあります。また、不用意にロープが引っ張られて、思いがけずエンジンが始動することもあります。作業を中断したり、他の場所に移動したりするときは、スロットルレバーが必ず“停止位置”にあることを確認してください。
- ⚠ 注意** 本機運転は、標準付属部品（蛇管+自在管+直噴管+曲噴頭）を装着して行ってください。薬剤タンク・付属部品等を外した状態で運転を行うとエンジン焼き付きなどのトラブルを起こします。
- ⚠ 注意**

 - エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー、シリンダーフィンなどに手を触れると火傷します。
 - エンジンの運転中、スパークプラグにはさわらないでください。
 - エンジン始動のとき、シャッターレバーが確実に「O」の位置でシャッターが閉じていることを確認します。

送風機について

- ⚠ 注意**

 - 噴頭から吐出する薬剤は高速です。人に向かって吐出しないでください。
 - 頭髪の長い人はしばったりして髪がまき込まれない様にしてください。
- ⚠ 警告** 送風機は高速回転体で大変危険です。運転中は吸込口や吐出口から手を入れないでください。

ご使用後の注意

- 使用する薬剤や肥料などは、薬剤タンク内に残さないように散布してください。
- 薬剤タンクに残った薬剤は、きれいに取り去り、元の容器または、袋に入れて幼児の手のとどかない所に保管してください。機械についた薬剤などもきれいに取り去ってください。発錆や故障の原因になります。
- 燃料は、全て抜き取ってください。
- 損傷個所のある場合は、修理してから格納してください。この場合、部品、消耗品はすべて当社指定の純正部品をご使用ください。
- 保管は湿気の少ない場所に、チリやゴミが付着しないようにしてください。

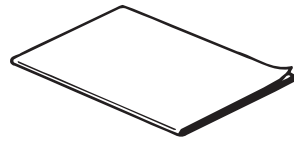
2.各部のなまえと操作部のはたらき

標準付属品のご確認

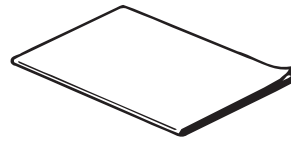
標準部品のご確認

梱包箱を開けたら、まず付属品が揃っているかどうか、確認してください。万一、付属品が足りない場合や破損していた場合は、すぐにお買い求めの販売店にお申し出ください。

付属品



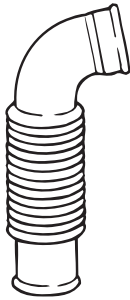
取扱説明書



安全作業説明書



直噴管



蛇管



曲噴頭



自在管



ワイヤクランプ 大



芯管組立
(ストップリング付)

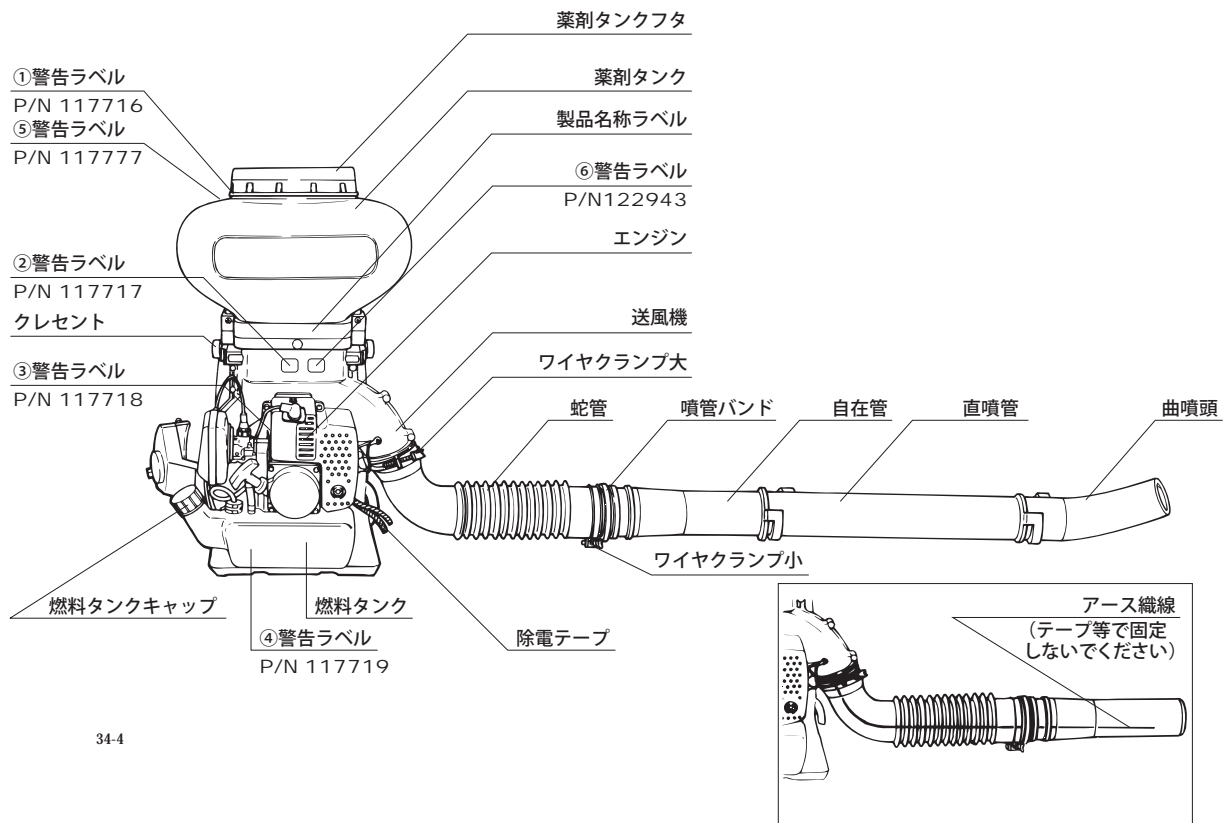


ワイヤクランプ 小

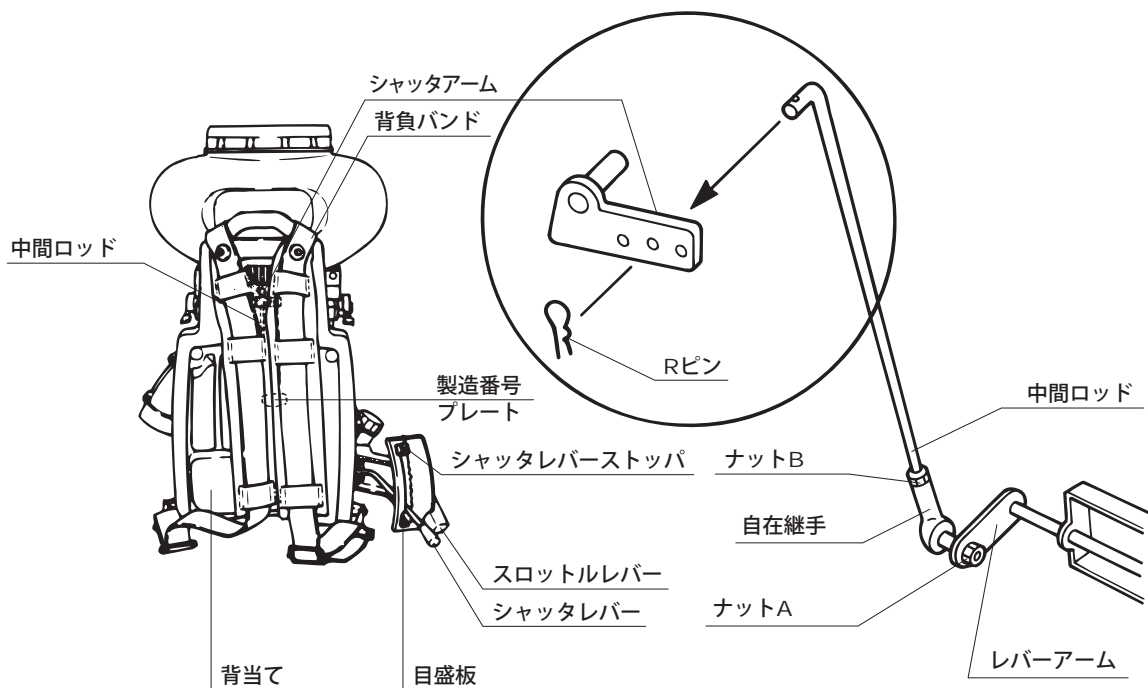


噴管バンド

各部のなまえ



34-4



- いつも汚れや泥をとり、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは、新しい物と交換してください。
- 警告ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい警告ラベルを取外した部品と同じ場所に貼ってください。

警告ラベル

①薬剤タンク

 **注意**

フタは確実にしめること。薬剤が吹き出しあびる恐れがあります。

P/N 117716

②エンジン点火プラグ

 **注意**

運転中の点火プラグやコードは、触れないこと。感電する恐れがあります。

P/N 117717

③エンジンシリンダー

 **注意**

運転中や停止直後エンジンシリンダーのフィンは、触れないこと。高温な為火傷します。

P/N 117718

④燃料タンク

 **危険**

エンジン運転中や停止直後は、絶対に給油しないこと。引火し火災の恐れがあります。

P/N 117719

⑤取扱説明書

 **注意**

運転前に、必ず、取扱説明書を読んで、よく理解してから運転してください。

P/N 117777

⑥リコイル取扱

 **注意**

リコイルスタータの分解はしないでください。けがをする恐れがあります。

P/N 122943

操作部のはたらき

エンジン

循環式のキャブレターを採用しているため停止後そのまま放置しておいてもリターンパイプを通して、キャブレター内の燃料は燃料タンクに戻ります。

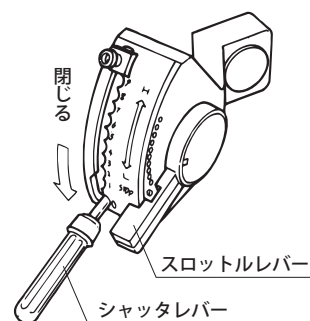
始動時はプライミングポンプを操作して、リターンパイプから燃料が戻る事確かめてからスタートさせます。



K4-3

スロットルレバー

最下段は停止位置です。
エンジンの回転を調整します。
上に引上げると高速になります。



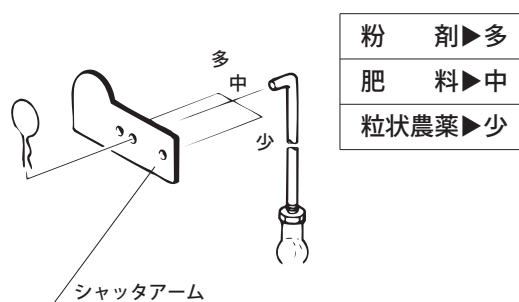
34-6

シャッターレバー

本機からの吐出量を調整します。
背負った状態でからだ側に引くようにして上下させます。

シャッターアーム

散布剤・散布方法により吐出量を調整するとき多・中・少を選択します。

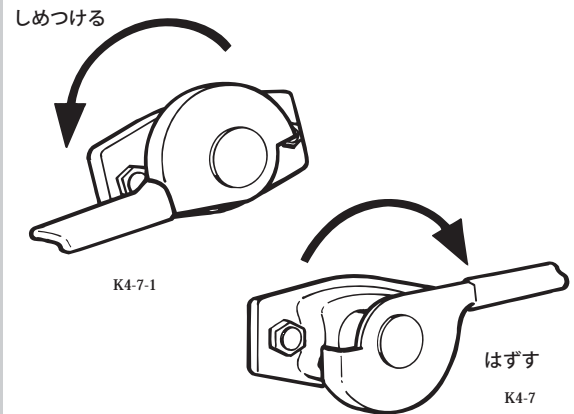


34-7

クレセント

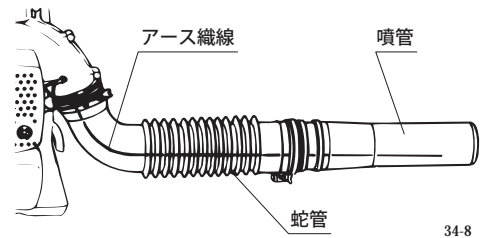
薬剤タンクとファンケース本体をワンタッチで脱着することができます。

中間ロッドを外しクレセントをまわすと、薬剤が入ったままでもタンクを外し薬剤の回収ができます。



帯電防止装置

- 薬剤散布をすると静電気が発生しますが、薬剤の種類、気温、湿度などの影響により、静電気が激しく発生する場合があります。これを防止するため、本機付属の除電テープとアース織線を使用してください。
- 除電テープとアース織線は本機に組付けてありますからアース織線を蛇管と噴管の内側に通してください。



3.取扱い及び操作のしかた

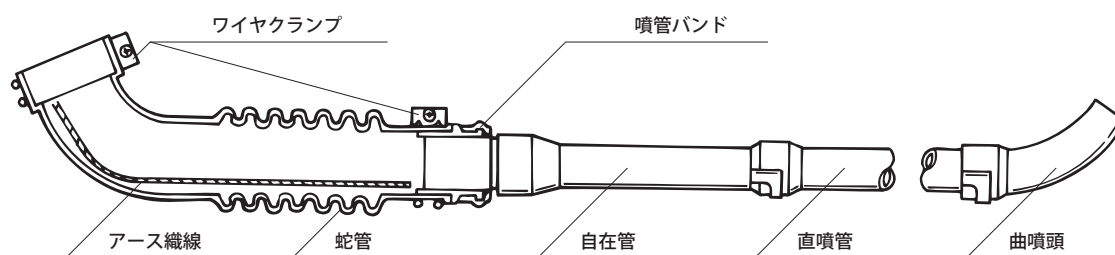
組立

⚠ 注意

噴頭類(例えばニューすつとび噴頭等)は、夏の暑い時期においても十分な性能を発揮することを考慮し、噴管と噴管のはめ込みのきつさを設定しています。

そのため、寒い時期に噴頭類を組立てる際に、はめ込みのきついものが発生する場合があります。このような時は、噴管のはめ込み部のメス側をお湯等で温めるか、またオス側に油等を塗布して噴管をはめ込んでください。

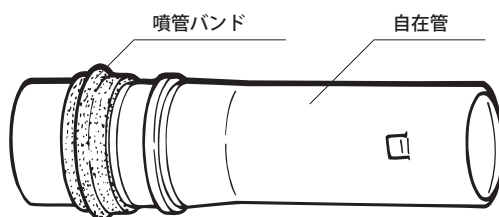
噴管の組立



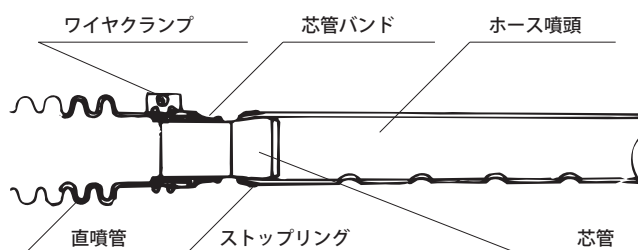
ワイヤクランプを使用して蛇管を作業機に、自在管に噴管バンドを付け、これを蛇管に接続してください。

直噴管、曲噴頭を自在管に接続してください。

噴管バンドの組付け



ホース（希望付属品）噴頭の組立



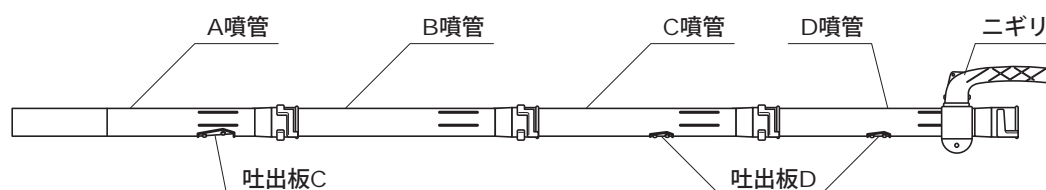
ニューすつとび噴頭の組立（オプション（別売））

1.ニューすつとび噴頭は、それぞれ種類の異なる4本の噴管とニギリにより構成されています。

噴管の種類と数を確認してください。

〈A噴管〉・〈B噴管〉・〈C噴管〉・〈D噴管〉・〈ニギリ〉

2.組み立てにあっては下図に示すように、先端からA噴管・B噴管・C噴管・D噴管の順番で4本の噴管を全部接続してください。



●ニューすつとび噴頭接続要領

A噴管とB噴管・B噴管とC噴管・C噴管とD噴管の接続は従来の噴管の接続方法は異なります。D噴管と自在管の接続は従来の方法と同一です。

以下でA噴管とB噴管・B噴管とC噴管・C噴管とD噴管の接続方法を説明します。

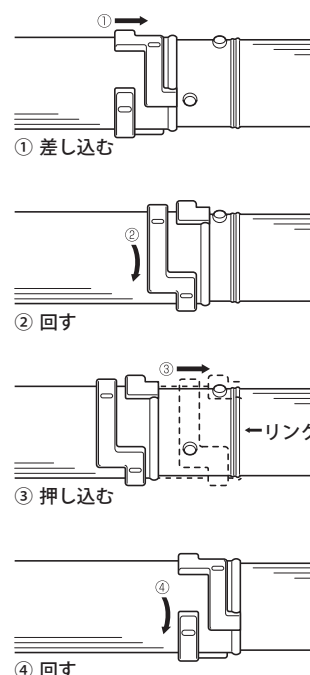
1 噴管先端（B噴頭・C噴頭・D噴頭）に4つの凸部（2対の位置相違）があり、この内先端側の2個の凸部を最初に相手側噴管の2条ネジ部に差し込み、溝に沿って1/4回転回します。

※最初に吐出板が反対になるようにして凸部を差し込むと組み立てた時に吐出板が同一方向となります。

2 噴管の軸方向に対して最後まで押し込みます。（この時残りの凸部が2条ネジ部に入り、そのあとに噴管の円周方向に形成されているリングが相手噴管に完全に入るようになります。）

3 最後まで押し込みましたら、さらに溝に沿って1/4回転回します。この時吐出板が同一方向に向いていることを確認します。

4 噴管同士がしっかり組み合わされているのを確認したら、組み立て完了です。



※ニューすつとび噴頭の吐出板は消耗品ですので摩耗したら交換してください。

吐出板は、目安として対応面積2ha前後（肥料散布時）です。{肥料の種類によって変動します。}

被覆肥料（LPコート肥料・セラコート肥料等）については破損等の問題が生ずる可能性がありますので、被覆肥料を散布する場合は樹脂製の吐出板をおすすめします。

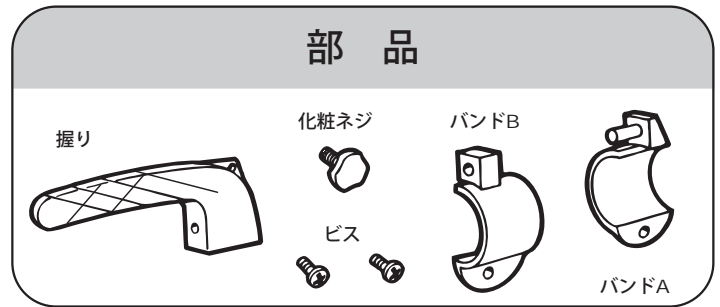
吐出板（標準付属品／樹脂製）

P/N 部品番号	部品名称	個数
118620	吐出板C	1
118621	吐出板D	2

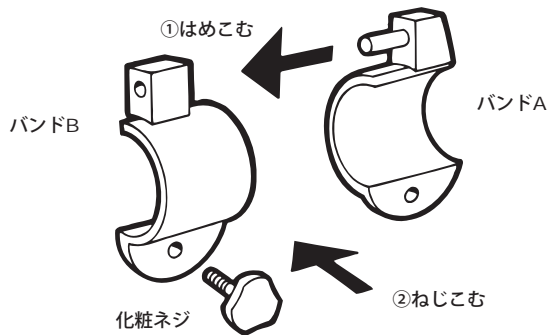
握りの組立

- ニューすつとび噴頭に握りを組み付けることで作業性がよりいっそう向上し、肥料や薬剤の散布が楽に行えます。
- 右の図で部品を確認して、以下1~3の手順に従って組み立てて御使用ください。

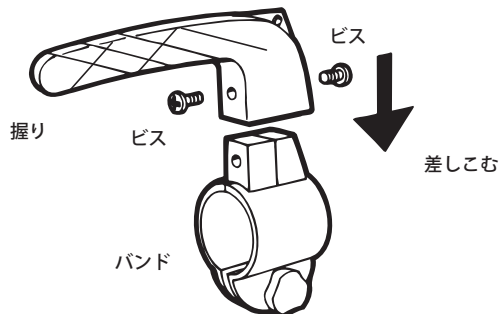
あらかじめ組み立てられています



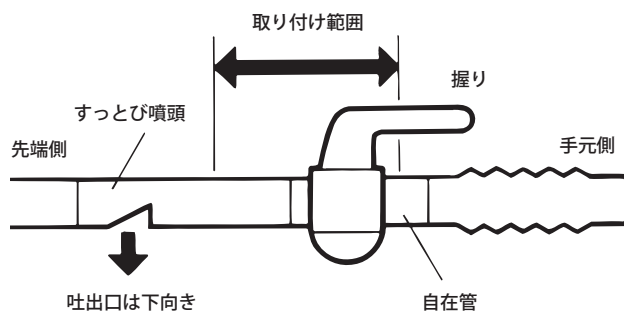
1



2



3



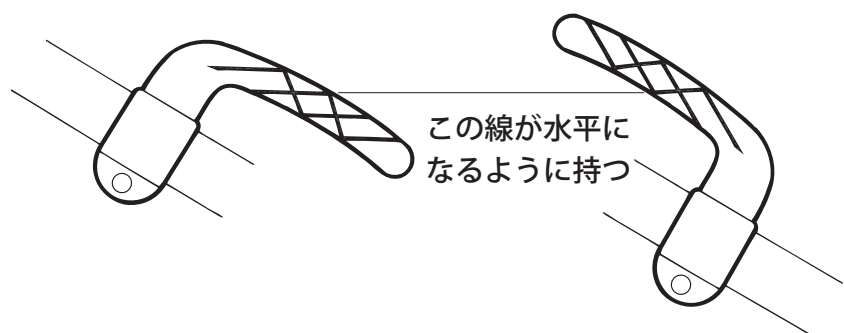
- A、Bのバンド同士を左図のようにはめ合わせます。
- 次に、化粧ネジをバンドBからバンドAに軽くねじこんでおきます。

- 組まれたバンド上部に握りを差しこみ、2本のビスでしっかり締め付けてください。

- 握りを噴頭の手元側、あるいは自在管に通し、自分の体形に合った作業しやすい位置で、化粧ネジをしっかり締めて固定します。
- この時、噴頭の吐出口は真下を向くようにしてください。
- 以上で組み付けは完了です。

使い方のポイント

握りは、右図のように保持すると、ニューすつとび噴頭を最適な角度に保つことができます。体格に合わせて使用できます。



始業前点検

- 本機はそのまま付属品を装着するだけで散粉機・散粒機として使用できるようになっています。
- 各部ネジにゆるみがないか点検します。薬剤タンク取付部にゆるみがないか点検します。

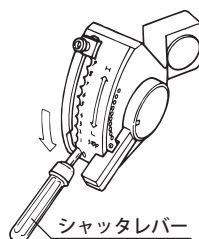
 **注意**

- ネジがゆるんでいると事故につながります。
- 燃料ホース・電気配線に異常がないか点検します。また、燃料ホース・電気配線については定期的に整備・交換してください。
- 背負いバンドの長さを自分の体形に合わせ、調節します。
- 警告ラベルが本体からはがれた場合は購入して貼付してください。

シャッタのセッティング

- 工場出荷時は、シャッタのセットは、シャッタアーム（中）、の位置の状態となっています。
- 散布する薬剤の種類、散布方法に応じて、中間ロッドの位置（多・中・少）を切り替えてください。

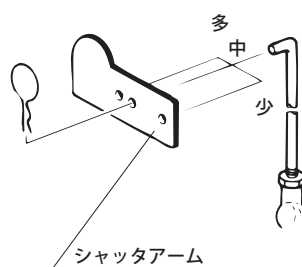
1 シャッタレバーを最下段「O」に合わせます。



34-6-2

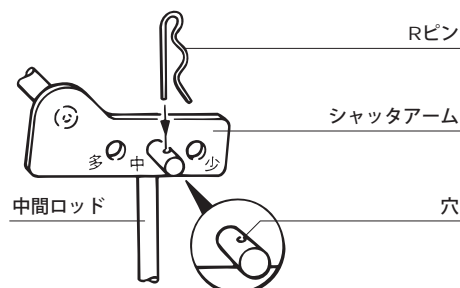
2 中間ロッドを下の表に従ってシャッタアームに差し込みます。

粉 剤	▶多
肥 料	▶中
粒状農薬	▶少



34-7

3 中間ロッドの穴にRピンを差し込みます。



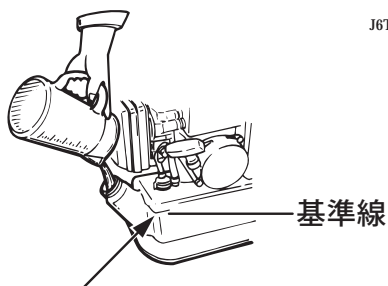
K4-13

燃料の給油

●必ず混合燃料を使用します。

オイルは2サイクル専用オイルを使用
のこと

ガソリン	:	オイル
25	:	1



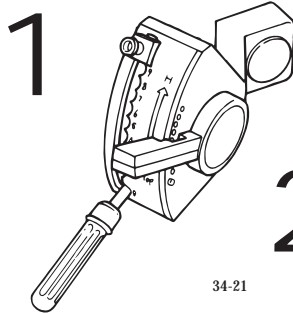
J6T-8

基準線以上入れないでください。
エンジンを停止して給油してください。
燃料をこぼさないようにしてください。
こぼした時はすぐにきれいに拭きとって
ください。

! 危険

混合燃料は引火するおそれがあり
ます。
給油中は、たばこなどの火気は厳禁
です。

エンジンの始動



34-21

1 スロットルレバーを3～4ノ
チ上へあげます。

2

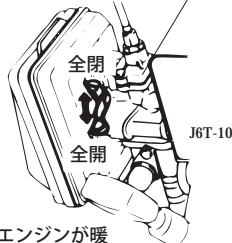
プライミングポンプを操作し、
リターンパイプから燃料の戻
りを確認します。



K4-3

3 チョークレバー
を操作します。

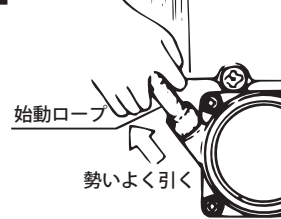
第一回目の始動
エンジンが冷えているとき全開



J6T-10

エンジンが暖
まっているとき全開

4 始動ロープを勢いよく
引いて始動させます。



K4-27

5 チョークレバーを
徐々に戻します。



J6T-11

6

エンジンが始動しない場合
チョークレバーを全開にし
て始動ロープを引き直して
ください。

それでも始動しない場合、
「故障診断とその処置」を
参照してください。

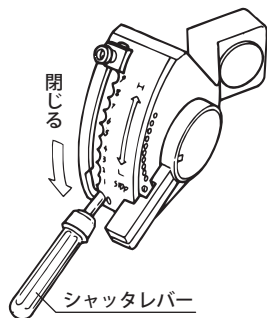
! 注意

始動ロープの引きかた

1. 始動ロープを右手で確実に握ります。
2. 左手で薬剤タンクを押えます。
3. 始動ロープは抵抗を感じるところまでゆっくり引きます。
4. 始動ロープはスタータの出入口とまっすぐになるように引きます。
5. 始動ロープは全部引ききらないようにします。
6. 始動ロープは引張ったまま手離さないで確実に元にもどします。

薬剤の補給

- 1 シャッタレバーを「0」に合わせます。



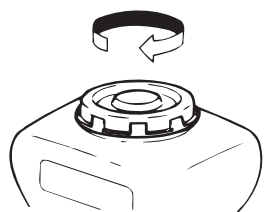
34-6-1

- 2 固まりをとりのぞき外部にこぼさないように薬剤を入れます。薬剤を入れる時は外にこぼさない様に注意します。薬剤は散布しようとする必要量を入れます。



K4-18

- 3 薬剤タンク蓋パッキンを確かめ確実に密閉します。ゆるいと薬剤の吐出しに影響の出ることがあります。また、薬剤がふき出し、あびる場合があります。

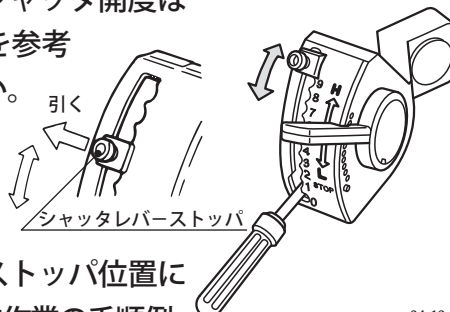


K4-19

薬剤はゴミなどの異物や、固まりのないよく乾燥したものを使用します。

散布開始

- 1 散布に必要なシャッタ開度は「散布計画表」を参考にしてください。シャッタレバーストッパを引いて必要開度に合わせます。ストッパ位置については「散布作業の手順例」を参考にしてください。

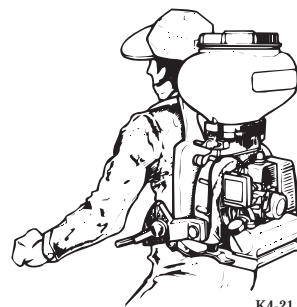


34-13

- 2 本機を背負います。

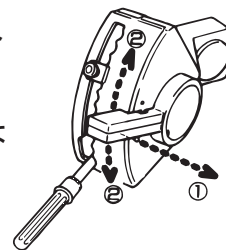
**注意**

薬剤を入れた本機は重量物ですので、取扱いには十分注意してください。



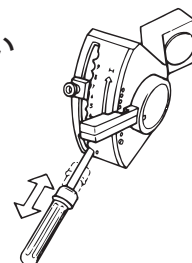
K4-21

- 3 散布噴頭に合わせてスロットルレバーを操作します。レバーは軽く外側①に押しながら②の方向に操作します。



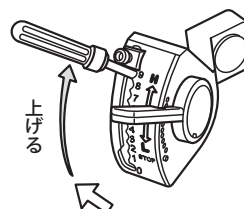
34-14

- 4 シャッタレバーの握りを引いて操作しやすい位置にします。



34-15

- 5 シャッタレバーを上げて散布します。シャッタレバーを軽く内側にひきながら操作します。

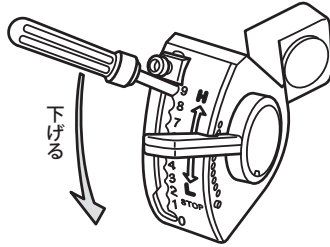


34-16

散布終了とエンジン停止

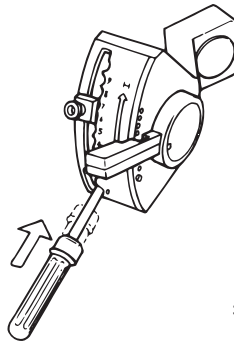
散布終了

- 1 シャッターレバーを下げ
て散布を終了します。



34-17

- 2 シャッターレバーの握り
を押し縮めます。

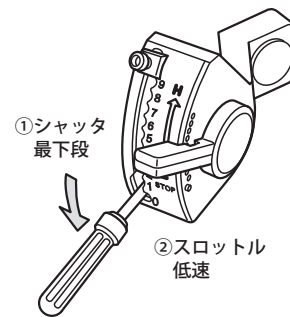


34-18

エンジン停止

1

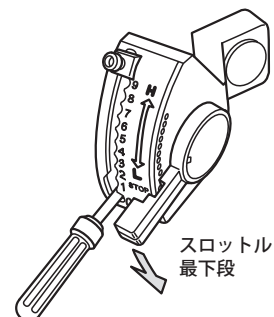
- シャッターレバーを最下段にして散布を
停止します。



34-19

2

- シャッターを閉じた状態で、スロットル
を最下段にしてエンジンを停止します。



34-20

散布計画表による散布（目安）

- 散布作業に当っては、散布する薬剤・肥料の散布量に対応して、散布計画表を参考に、シャッタ開度と歩行速度を求めて作業を行ってください。
- 実際に作業を行い、もし計画表の通りに散布できない場合は、シャッタ開度か歩行速度を変えて調節します。
- スロットル開度は全開が主ですが薬剤の飛距離に合わせて調整して下さい。

吐出量グラフによる散布計画

- 散布計画表と異った内容の場合、19ページのグラフを用いて、次のように散布計画を立てます。
- ①たとえば歩行速度を求めるには、まず、噴頭とその散布幅を決めます。（20ページ参考）
- ②適当なシャッタ開度を設定し、それに対応する吐出量をグラフより導きます。
- ③次の式に、吐出量、散布幅、散布量の数値を当てはめ計算すると、歩行速度が求められます。

$$\text{歩行速度} \frac{\text{m}}{\text{秒}} = 16.7 \times \frac{\text{吐出量} \frac{\text{kg}}{\text{分}}}{10 \text{アール当り} \frac{\text{kg}}{\text{kg}} \times \text{散布幅} \frac{\text{m}}{\text{m}}}$$

- この時、歩行速度は、0.3～0.6m/秒の範囲が最適となります。
- それ以外の値の時は、散布幅を調節するか、吐出量を選定し直して、0.3～0.6m/秒になるようにして散布を行ってください。

散布計画表（目安として）

粒状肥料

散布量 kg (10アール当り)	噴頭	散布幅 m	吐出量 kg/分	歩行速度 m/秒	シャッタアーム 位置	シャッタ 開度
10	曲噴頭	15	4.0	0.45	中	8
	ニューすつとび噴頭	17	4.0	0.39	中	8
	ホース噴頭（往復散布）	20	2.5	0.42	中	7
20	曲噴頭	15	8	0.45	多	6
	ニューすつとび噴頭	17	8	0.39	多	6
	ホース噴頭（往復散布）	20	5.0	0.42	中	9

※往復散布…いきとかえりて、本機と噴頭先端の保持者の位置を入れ替えて、2度散布すること。

散布計画

粉剤 (噴管使用の場合)

散布量 kg (10アール当り)	噴頭	散布幅 m	吐出量 kg/分	歩行速度 m/秒	シャッターアーム 位置	シャッター開度
3	Y噴頭	4	0.4	0.55	多	3
	曲噴頭	6	0.4	0.37	多	3
	多口噴頭	5	0.4	0.45	多	3
4	Y噴頭	4	0.4	0.42	多	3
	曲噴頭	6	0.7	0.49	多	3
	多口噴頭	5	0.7	0.59	多	4

粉剤 (カーペット噴頭使用の場合)

散布量 kg (10アール当り)	ホース長さ m	吐出量 kg/分	歩行速度 m/秒	シャッターアーム 位置	シャッター開度	
					DL粉剤	一般粉剤
3	20	1.7	0.47	多	6	7
	30	2.4	0.45	多	7	8
4	20	2.4	0.50	多	7	8
	30	4.0	0.56	多	8	9

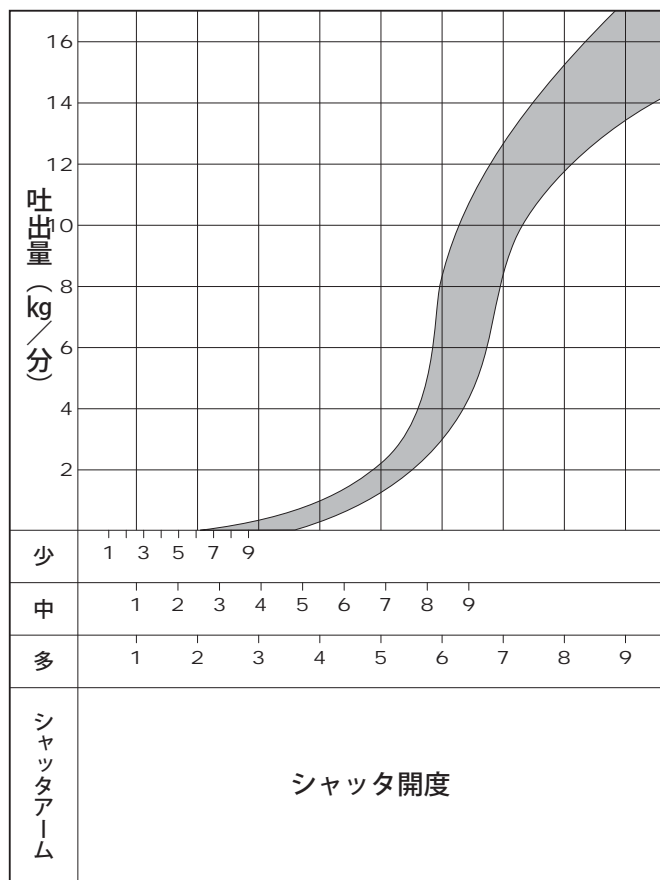
粒状農薬

散布量 kg (10アール当り)	噴頭	散布幅 m	吐出量 kg/分	歩行速度 m/秒	シャッターアーム 位置	シャッター 開度
1	曲噴頭	10	0.3	0.50	少	6
	ニューすつとび噴頭	13	0.3	0.39	少	6
	ホース噴頭	20	0.7	0.58	中	4
3	曲噴頭	10	0.7	0.39	少	5
	ニューすつとび噴頭	14	0.7	0.39	少	5
	ホース噴頭	20	2.0	0.55	少	7

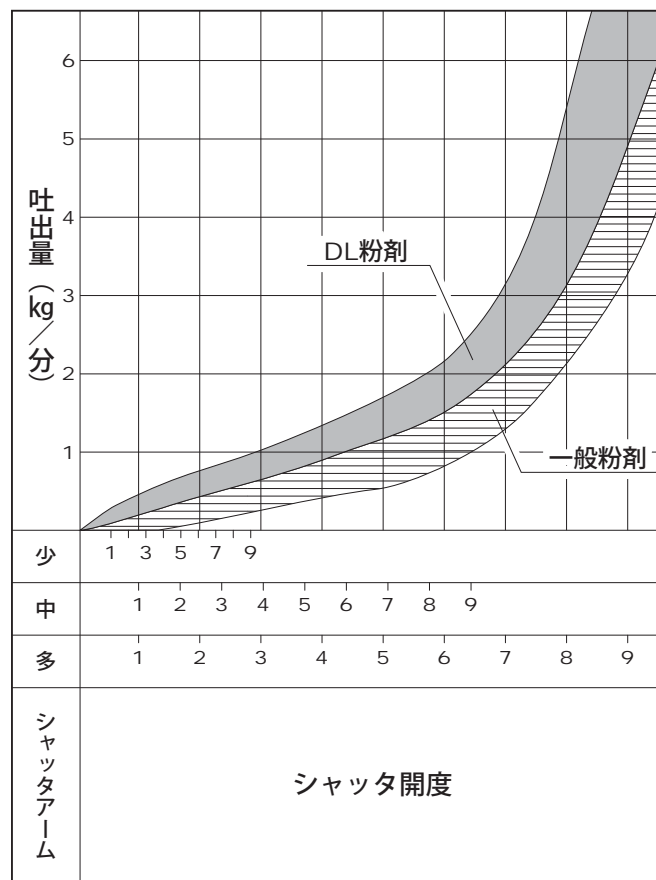
吐出量グラフ (目安)

自社試験による参考値ですので、これは目安にしてください。

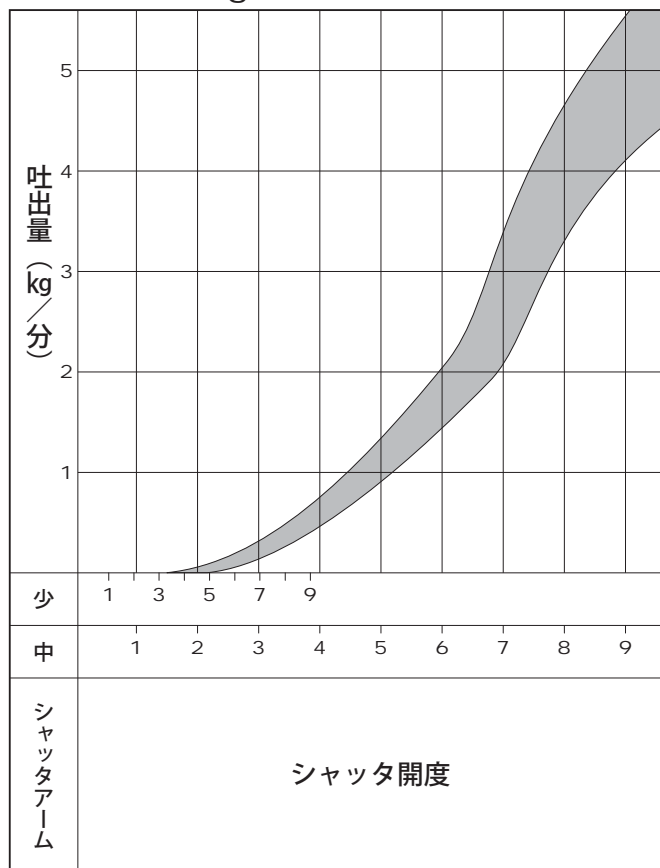
粒状肥料



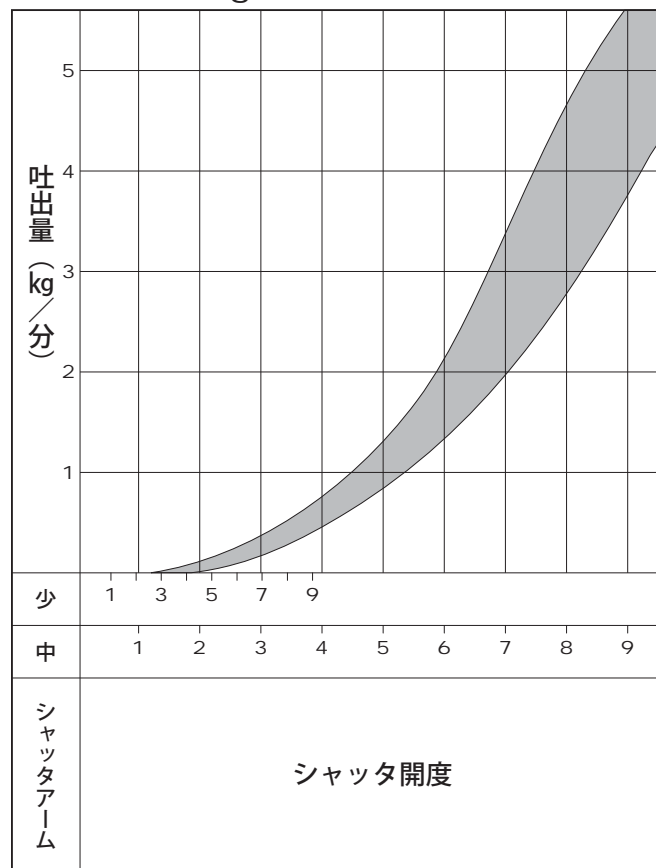
粉 剤



粒状農薬 (1kg/10a粒剤、微粒剤)



粒状農薬 (3kg/10a除草剤含む)



各噴頭の散布幅

- 用途と噴頭により散布幅が決まります。下の表から散布幅を導き出してください。

⚠ 注意

- 散布幅は風の強さによって変化します。
- この散布幅は当社試験による無風時の参考値です。

⚠ 注意

ニューすつとび噴頭で被覆肥料を散布する場合、被覆肥料の破碎を防ぐ為、エンジンスロットルを3～5ノッチの位置でご使用ください。

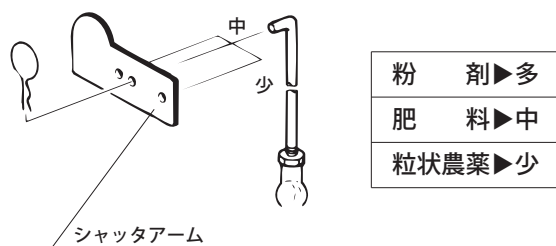
この場合、散布幅は15m程度になります。

用途	噴頭		散布幅（到達性能）m
粉剤、粒剤、肥料の散布	曲噴頭		粉剤5～7
			粒剤、肥料10～15
粉剤の株元への吹込散布	Y噴頭		3～5
粉剤の吹込散布	多口噴頭		片振3
			両振7
粉剤の散布	カーペット噴頭 (DL用を含む)	20	20
		30	30
粒状農薬(1kg/10a粒剤)の散布	ニューすつとび噴頭		13
粒状農薬の散布	ニューすつとび噴頭		17
	粒剤用 多口ホース噴頭	N20	20
粒状肥料の散布	ニューすつとび噴頭		18
	粒剤用多口ホース 噴頭(往復散布)	H20	20

正確な吐出量の算出法

- 湿度、薬剤の種類等により吐出量が異なる場合があります。グラフや表は目安としてお使いください。
- 正確な吐出量を求めるには次のようにしてください。

①散布する薬剤の種類に応じて、シャッターアームに中間ロッドをセットします。



34-7

- ②予定しているシャッター開度にセットして、試し散布を行います。
- ③その時に要した秒数を計測し、下の式に当てはめて計算します。

$$\text{吐出量(kg/分)} = \frac{\text{(kg) 投入量} \times 60}{\text{吐出に要した秒数 (秒)}}$$

- この値を用いれば、より正確な歩行速度の計算ができることになります。

重要

- 特に1kg/10a粒剤の初回の散布には、上の内容を実施する様にしてください。
- 薬剤のまき過ぎには十分注意してください。
- 散布に当っては、散布しようとする薬剤、肥料等の注意事項を守ってください。

肥料散布についての注意

- 薬剤タンク内の肥料はできるだけ散布を中断せずに、続けて全部散布してください。
- 薬剤タンクに肥料が入っている状態でシャッターを閉じるときは徐々にシャッターレバーを下げます。
- 急にシャッターを閉じたり無理にシャッターを閉じるとシャッターに肥料がこみ込み、故障の原因となります。
- 散布中にたびたび肥料の吐出が中断するときには、つまりを取り除いた後、シャッターレバーを1段上げ散布速度を速めます。
- 薬剤タンク内に肥料が残ったまま作業を終了した場合は、薬剤タンク内の肥料を回収し清掃してください。

除草粒剤（1kg/10a剤、3kg/10a剤）を散布する場合は、次の噴頭の使用をお奨めします。

- ニューすつとび噴頭
〈希望付属品〉
- 1キロ粒状用ホース 30M
〈希望付属品〉

散布作業の手順例

ニューすつとび噴頭を使用して、粒状肥料を10アール当り10kg散布する場合。

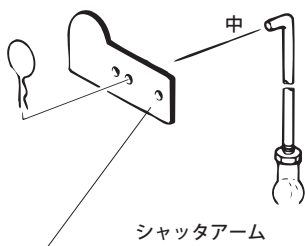
薬剤タンクに薬剤を入れる前にシャッターレバーが「0」でシャッターが閉じていることを確認します。

- 1** 薬剤タンクに散布する少量の肥料（約10kg）を入れます。



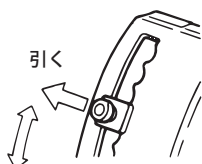
K4-18

- 2** 中間ロッドの位置を「中」位置にします。



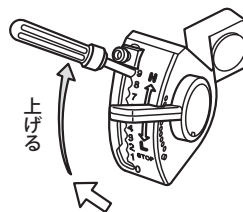
34-7-1

- 3** シャッターレバーストップを「9」の位置（レバーが8の位置でとまる場所）にセットします。



34-13-1

- 4** 本機を運転し、シャッター開度「8」の位置で毎秒39cmの速さ（10mを25.6秒の速さで歩く）で散布します。



34-16

この時の粒状肥料の散布幅は約17mとしています。

スロットル開度を3～5ノッチとし、散布幅を約15mとすると、毎秒45cmの速さで散布することになります。

10アール散布が終わって薬剤タンクが空になれば予定どおりの散布ができたことになりま

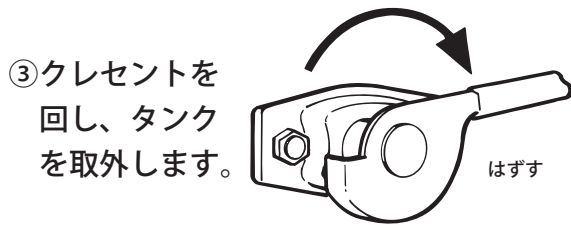
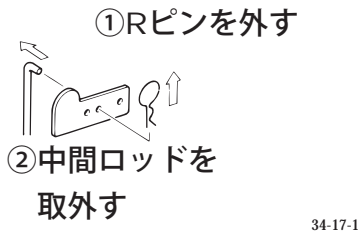
- 5** 薬剤タンクに肥料が残った場合は、歩行速度を遅らせます。また10アールの散布が終わらないうちに薬剤タンクの肥料が空になった場合はシャッター開度を1段下げるか、散布速度を速くして本散布を行います。

その他散布作業の注意

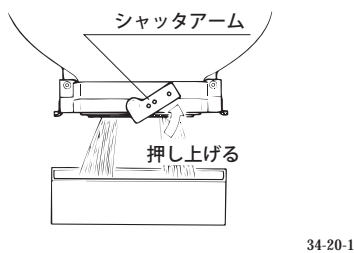
- フローダスト剤の散布
フローダスト散布を行う場合は購入先にお問合せください。
- コーティング剤・被覆肥料の散布
コーティング剤・被覆肥料散布の場合は、ニューすつとび噴頭を使用します。
散布幅は15mを目安にスロットル開度を3～5ノッチに調整してください。

清掃をする場合、あらかじめビニール手袋等を着用してください。

1 薬剤タンクを取外します。



2 タンクシャッタを開き、タンク内の薬剤の除去と清掃をします。



シャッターアームを押し上げるとシャッターは開きます。

3 吐出ケースを取り出し清掃し、送風機の中を点検します。

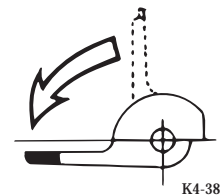


4 薬剤タンクを取付けます。

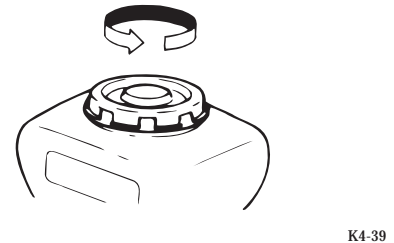


⚠ 注意

締付けは交互におこない両側とも(水平より下)に止めます。

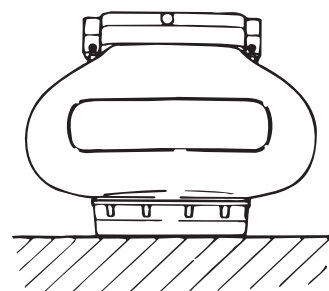


5 薬剤タンクのフタはゆるめておきます。



⚠ 注意

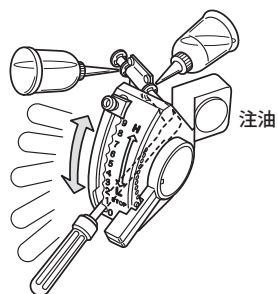
- 肥料を散布した場合はシャッターが固着したり、金属部が腐食する場合がありますので特に念入りに清掃してください。
- 薬剤タンクを取り外し、床に置く場合は、フタを下にして置いてください。



各部の清掃

本体

- 薬剤の除去、清掃を行い本体も清掃しておきます。
- シャッタ軸受部に注油し、数回シャッタレバーを上下させます。
- ネジの欠損、ゆるみを点検します。



J4-16

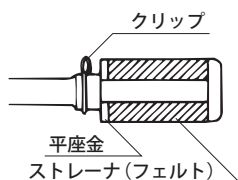
燃料ストレーナ

火気厳禁



34-24

- クランプをつまみ、ストレーナを抜き出します。
 - ストレーナが汚れている場合はストレーナを取外しガソリンまたは混合油で洗浄します。
- ※ストレーナを取外す場合、クリップ、平座金の紛失に注意し確実に組付けます。

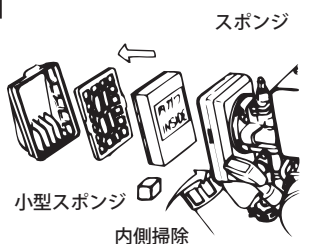


K4-44

エアクリーナ

- エアクリーナ内のスポンジが粉やちりで目詰り状態になると、エンジンの出力が低下し、始動しにくくなりますので使用後は必ず次の要領で掃除します。

1 スポンジを取外す

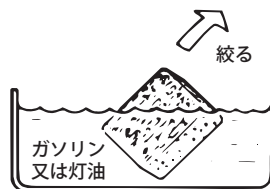


34-21-1



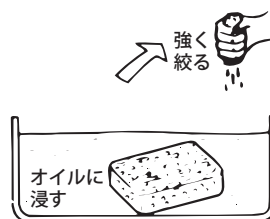
34-21-2

2 洗浄



34-22

3 オイルをつける



34-23

(小型スポンジもガソリン又は灯油で洗ってください。)

格納

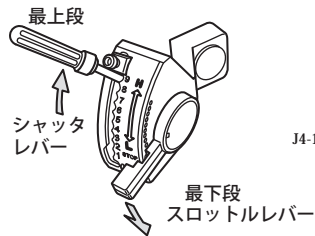
●格納するときは、次のことを厳守します。

1 燃料を抜きとる



K4-50

2 スロットルレバー、シャッターレバーのそれぞれを右図のようにしておく。



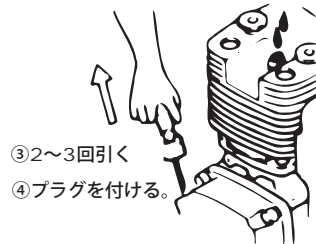
J4-17

3 シリンダの保守

①プラグを外す

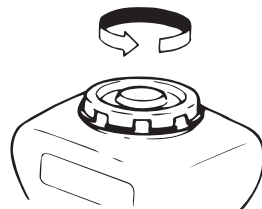


②オイル数滴



K4-51

4 薬剤タンクフタはゆるめておく



K4-39

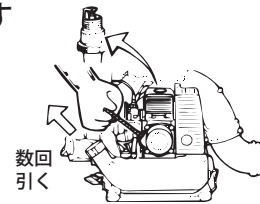
注意

スロットルレバーは必ず最下段にしてから格納してください。

プラグの点検・整備

●プラグがひどく濡れているとき、汚れているときの点検・処置

乾かす



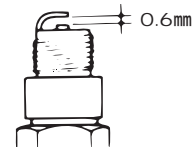
K4-53

カーボンを取除く



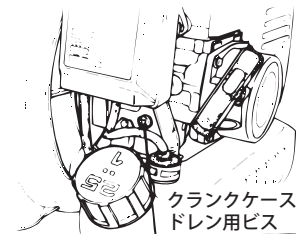
K4-54

正しい状態



K4-55

エンジン内の燃料を抜く



K4-56

●以上のことを済ませたら、箱などに入れ、湿気の少ない風通しのよい場所に保管します。

故障診断とその処置

- エンジンの始動困難、調子が良くない場合は次表の内容が考えられます。
- ☆印についてはお買い上げの販売店、または当社営業所に調整、修理を依頼してください。

エンジンが始動しない				
状態	原因	処置		
混合燃料があり点火プラグで発火しない場合	プラグキャップまでは電気が来る	混合燃料の吸い過ぎ 点火プラグの間隙不良 点火プラグの絶縁不良	乾かす 調整、交換 点検、清掃、交換	☆ ☆ ☆
	プラグキャップに電気が来ない	イグニッションコイルの断線又はショート	交換	☆
混合燃料があり点火プラグで発火する場合	圧縮のよい場合	混合燃料の不良	正規の燃料を使用	
	圧縮の悪い場合	パッキンの不良又は締付け不良 点火プラグの締付け不良 ピストンリングの固着	点検、調整、交換 締付け 点検、交換	☆ ☆ ☆
気化器に混合燃料が来ない場合	燃料タンクに混合燃料がない 燃料タンク通気口のつまり 気化器内部通路のつまり パイプの折曲り及び外れ	補給 点検、清掃 点検、清掃 点検、修理、交換	☆	
エンジン不調				
状態	原因	処置		
力がない	圧縮も良く失火もない	エアークリーナエレメントの目づまり 燃料パイプ接手などに空気が入っている チョークレバーが閉(半開)になっている シリンダ・マフラのカーボン堆積	点検、清掃 除去する 点検、調整 点検、除去する	☆ ☆ ☆ ☆
	圧縮が悪い	点火プラグ締付不良 ガスケットの不良・締付不良 シリンダ、ピストンリングの摩耗 シリンダ内部のキズ、ピストン頭部の亀裂	点検、清掃、交換 点検、交換 点検、交換 点検、交換	☆ ☆ ☆ ☆
エンジンの過熱	混合燃料の不良、混合不充分、混合比不良 カーボンの堆積、過負荷運転 点火プラグ不良 シリンダ、冷却フィンにゴミのつまり	正規の燃料を使用 点検、除去 点検、交換 清掃	☆ ☆ ☆ ☆	
爆発回転の不確実、失火する	混合燃料が少なすぎる(燃料通路のつまり) 点火プラグ不良 点火コイル	点検、清掃 点検、交換 点検、交換	☆ ☆ ☆	
エンジン不快音	シリンダのオーバーヒート 回転部分の異常接触 エンジンの内部損傷	点検、調整 点検、調整 点検、交換	☆ ☆ ☆	
迅速な加速不可能	燃料通路のつまり ガソリンオイルの品質不良 カーボンの堆積	点検、調整 正規の燃料を使用 点検、除去	☆ ☆ ☆	

- この項目は、お客様が行うことができます。
- 下記の処置をしても不調の場合は、お買い上げの販売店、または当社営業所へ問合せください。

本 機		
状態	原 因	処 置
粉・粒が吐出さない	シャッタのつまり	つまりを取り除く
	吐出ケース内のつまり	つまりを取り除く
	中間ロッドがはずれている	中間ロッドをシャッターアームにつなぐ
吐出量が少ない	シャッターアームの多中少の位置がちがう	適正な位置にあわせる
	粉・粒がしめっている	乾かす
	粉・粒がかたまっている	ほぐす
	薬剤タンクフタが確実にしまっていない	ギュッとしめる
	異物の混入	取り除く

アフターサービスについて

- 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、すぐに適切な整備をしてください。お買い上げの販売店にご連絡ください。
- 連絡していただく内容
 - 機種名
 - 製造番号
 - 故障内容
 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。
- 本製品を安全にご使用頂くには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、お買い上げの販売店に、点検整備をお願いしてください。この時の整備は有料となります。

補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、本製品の製造を打ちきり後9年です。但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

オプション（別売）

下記のオプション（別売）の御注文については、最寄りの取扱店または、当社営業所まで、お問い合わせください。

区分	部品名称	P/N 部品番号
散粉	カーペット噴頭20	019756
	カーペット噴頭30	019888
	Y噴頭	105631
	多口噴頭	100421
	T型多口噴頭	100415
	カーペット噴頭DL20	101031
	カーペット噴頭DL30	103998
	多口噴頭(DL)	103734
	T型多口噴頭(DL)	103735
	カーペット噴頭DL20A	106059

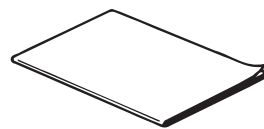
区分	部品名称	P/N 部品番号
散粉	カーペット噴頭DL30A	105789
	1キロ粒剤用ホース30	596922
散粒	粒剤用多口ホース噴頭N20	028701
	粒剤用多口ホース噴頭N30 (ナイロン)	109833
	粒剤用多口ホース噴頭H20	028699
	粒剤用多口ホース噴頭H30	028700
	ニューすつとび噴頭	121194
ミスト	ミスト装置	120637
	畝間用噴頭	103639
散粉、散粒	ボールクサリ	101618

仕様一覧表 ●この仕様は予告なしに変更することがあります。

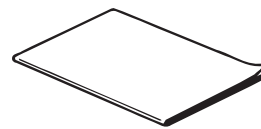
機種名称		GD300A	
本	寸法 (長×幅×高)	400×455×660mm	
	標準装備重量	8.5kg	
	薬剤タンク容量	15ℓ	
	燃料タンク容量	0.8ℓ	
機	送風機	形式	プレートファン
		回転数	7800 rpm
	最大吐出量	粉剤	4kg/分
		粒剤	10kg/分 (農薬・肥料)
調量方式	リップシールド弁方式		
エンジン	形式	空冷2サイクル単気筒	
	型式	TE27	
	排気量	27.2cc	
	混合比	25 (ガソリン) : 1 (オイル)	
	気化器	循環式	
	点火方式	無接点式マグネット点火	
	点火プラグ	BM7A	
	始動方式	リコイルスタータ	
	回転方向	右 (リコイル側から見て)	

●表示の重量は標準付属の噴頭管を装着した標準装備重量です。

付属品



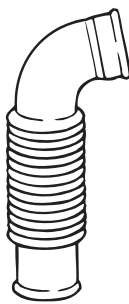
取扱説明書
P/N123875



安全作業説明書
P/N119839



直噴管
P/N107149



蛇管
P/N118400



曲噴頭
P/N106725



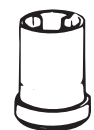
自在管
P/N106721



ワイヤクランプ 大
P/N100752



ワイヤクランプ 小
P/N100753



芯管組立
(ストップリング付)
P/N091505



噴管バンド
P/N020675

製品につきましては万全を期しておりますが、万一お客様に不都合が生じた場合には、下記のフリーダイヤルへ内容を充分ご確認の上ご連絡ください。

◆お客様相談窓口◆ 〈丸山サポートセンター〉

0120-898-114

ご利用時間 9:00~17:00 (土、日、祝日を除く)

肥料を散布する時の 注意事項

次の事を守らないと機械はサビて使えなくなります。

1. タンク内の肥料が全部無くなるまで散布します。
2. タンクが空になったことを確認してから2～3分間シャッターを全開にしたままでエンジンを運転します。
3. タンク内に付着している肥料はブラシ等ですべて取り除き、シャッターを全開にして、タンクをたたき、肥料をシャッターの下に落します。次にシャッターを閉じて、エンジンを運転し機械の中に落ちた肥料を吹き飛ばします。この操作を繰り返してタンク内に肥料が無いことを確認します。
4. 機械の外面に付着している肥料をよく拭き取り、シャッターレバー軸受部に注油し、数回シャッターレバーを上下させます。
5. シャッターを全開にして格納します。



株式
会社

丸山製作所

本社／東京都千代田区内神田3-4-15 TEL.03 (3252) 2281(営・代表) 〒101-0047

〈丸山サポートセンター〉フリーダイヤル 0120-898-114